

ITガバナンス

基本的な考え方

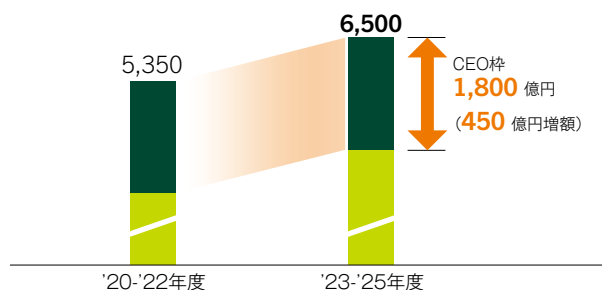
変わらない価値を守るためのレジリエンス強化と、新たな価値提供に付随する新たなリスクへの対応を進めます。人からシステムへの継続的なシフトと、それを支える開発体制の拡充およびシステムアーキテクチャの整備・統制をもって、社会的価値と経済的価値の双方を追求します。社会インフラを担うメガ金融グループとして安定性と柔軟性を両立し、デジタルを活用してビジネスを牽引します。

IT投資戦略

SMBCグループのさらなる成長と国内外におけるデジタル戦略加速のため、グループCEOが「経営上重要な分野」と判断したものに機動的に投入できるCEO枠を前中期経営計画比で30%積み増し、1,800億円としました。新中期経営計画のIT投資総額は前中期経営計画比1,150億円増の6,500億円として、デジタル化推進・内部統制強化やレジリエンス強化を含む経営基盤強化・事業戦略の実現といった戦略的な投資へ重点的に資源配分していきます。

積極的な投資によるITインフラ増強

(億円)



システム安定稼働を支える

レジリエンス強化の取組

デジタル化の進展に合わせ、内部・外部システム間での機能連携やサービスの拡大、お客さまの利便性向上に取り組んでいる一方、システム障害が発生した場合のお客さまへの影響も広範に波及する可能性をはらんでいます。そのため、

システムの安定稼働を維持することの重要性はより一層増しており、システムリソースの増強やシステム障害の予兆検知、予防保守等のシステム障害の未然防止策に取り組むとともに、障害発生時の影響を極小化していくため、コンテナジェンシープランの継続的な改善や手動による障害対応のシステム化、障害訓練内容の高度化等、レジリエンスを強化していきます。

先進技術の活用と新たなリスクへの着実な対応

デジタル技術はビジネスに不可欠であり、先進技術を有効活用するべく幅広く検証しています。

たとえば、文章の意図を解釈し自然な言葉の文章を生成する技術である生成系AIに早期から着目し、迅速に社内での実証実験を開始しました。従業員が生成系AIを活用することで照会対応・企画資料作成等にかかる時間を削減するほか、画像認識、音声認識、システム開発高度化等の分野でも幅広く活用を進めていきます。AIのリスクをコントロールするため、AIの回答内容の正確性は従業員が判断する等の社内規程の徹底と、規制等の最新動向を踏まえて適宜見直しを実施します。

社会課題解決への貢献と

新たな社会的価値の創造に向けた挑戦

グループの重点課題(マテリアリティ)として従来から挙げている「環境」への取組として、GHG排出量可視化サービス「Sustana」によってお客さまの脱炭素化を支援すると同時に、SMBCグループ自身も2030年のGHG排出量ネットゼロに向けて取り組んでいます。SMBCグループの国内GHG排出量のうち、約4分の1を占めるのが電算センターであり、AIを活用した空調制御の最適化、太陽光発電設備の拡充等、既存センターの省エネに取り組むほか、計画中の次世代電算センターにおいてはさらなる省エネにより環境負荷を抑制していきます。

また、ITを活用した「日本の再成長」への貢献として、SMBCグループ内のデジタル・IT教育組織である、デジタルユニバーシティで企画・監修した社内向け研修コンテンツをお客さまに提供し、幅広いデジタル教育機会を創出します。